准教授　**山本　潤**　YAMAMOTO, Jun

1. 略歴

1995 年 4 月　東京大学文科Ⅲ類入学
1999 年 3 月　東京大学文学部言語文化学科ドイツ語ドイツ文学専修課程卒業
1999 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻ドイツ語ドイツ文学専門分野修士課程入学
2001 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻ドイツ語ドイツ文学専門分野修士課程修了
2001 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻ドイツ語ドイツ文学専門分野博士課程進学
2003 年 10 月　ドイツ学術交流会（DAAD）奨学生としてルートヴィヒ・マクシミリアン大学（ドイツ・ミュンヘン）に留学（～2006 年 3 月）
2009 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科欧米系文化研究専攻ドイツ語ドイツ文学専門分野博士課程単位取得満期退学
2010 年 4 月　博士（文学）取得（東京大学大学院人文社会系研究科）
2011 年 4 月　首都大学東京都市教養学部　准教授
2018 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科　准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 著書

『「記憶」の変容 ― 『ニーベルンゲンの歌』および『ニーベルンゲンの哀歌』にみる口承文芸と書記文芸の交差』、多賀出版、2015 年 2 月、総 294 頁

(2) 学術論文

「写本伝承段階における『ニーベルンゲンの歌』と『哀歌』の受容」、『詩・言語』第 67 号、東京大学大学院人文社会系研究科ドイツ語ドイツ文学研究会、1-25 頁、2007 年 7 月

「「記憶」の継承 ― 『ニーベルンゲンの歌』と口承文芸」、『言語文化』第 27 号、明治学院大学言語文化研究所、56-71 頁、2010 年 3 月

「『ニーベルンゲンの歌』の重層構造 ― シーフリト像を中心に」、『詩・言語』第 72 号、東京大学大学院人文社会系研究科ドイツ語ドイツ文学研究会、1-21 頁、2010 年 3 月

「『哀歌』の『ニーベルンゲンの歌』に対する注釈的機能 ― triuwe と übermuot を巡って」、『詩・言語』第 73 号、東京大学大学院人文社会系研究科ドイツ語ドイツ文学研究会、1-37 頁、2010 年 10 月

Minneritt in recken wîse. Interferenzen der höfischen und der heroischen Welt im Nibelungenlied、『人文学報』第 465 号、首都大学東京人文科学研究科、17-32 頁、2012 年 3 月

「トーマス・クリングと中世 ― オスヴァルト・フォン・ヴォルケンシュタインとの関わりから」、日本独文学会研究叢書 094 号『文化史・文学史からみたトーマス・クリング』、日本独文学会、5-22 頁、2013 年 9 月

「破滅の神話 ― 近代以降の『ニーベルンゲンの歌』受容とドイツ史」、『カタストロフィと人文学』、西山雄二（編）、勁草書房、221-245 頁、2014 年 9 月

「『ディートリヒの逃亡』における「作者」像 ― ジャンル交差の諸相から」、『詩・言語』第 81 号、東京大学大学院人文社会系研究科ドイツ語ドイツ文学研究会、61-90 頁、2015 年 9 月

「名前と作者 ― 中世俗語文芸における作者性」、日本独文学会研究叢書第 110 号『名前の詩学 ― 文学における固有名あるいは名をめぐる諸問題』、日本独文学会、18-33 頁、2015 年 10 月

「中世ドイツ文学に見るローマ観 ― 『ディートリヒの逃亡』および『皇帝年代記』を題材に」、『西洋中世研究』第 7 号、西洋中世学会、97-117 頁、2015 年 12 月

Konzeptionen der Geschichtlichkeit in der genealogischen Vorgeschichte von „Dietrichs Flucht“. Neue Beiträge zur Germanistik Nr. 151, Japanische Gesellschaft für Germanistik, S. 75-91, 2015

「英雄たちの黄昏 ― 『ニーベルンゲンの歌』および『ニーベルンゲンの哀歌』に見る英雄性への視線」、『人文学報』第 513-14 号、首都大学東京人文科学研究科、49-66 頁、2017 年 3 月

「記憶と忘却 ― 『ニーベルンゲンの歌』の伝承において形成される黙示録的構造」、『ドイツ文学』第 154 号、日本独文学会、18-39 頁、2017 年 5 月

「オーストリアにおける「ドイツ国民叙事詩」研究 ― 『ニーベルンゲンの歌』の「オーストリア性」」、日本独文学会研究叢書 126 号『「人殺しと気狂いたち」の饗宴あるいは戦後オーストリア文学の深層』、日本独文学会、10-26 頁、2017 年 10 月

⑶ 項目執筆

『ドイツ文化 55 のキーワード』、宮田眞治・畠山寛・濱中春（編著）、ミネルヴァ書房、総 300 頁、2015 年 3 月、項目「中世 ― 声と文字の紡ぐ多様な文芸世界」、152-155 頁執筆担当

『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』、小澤実・中丸禎子・高橋美野梨（編著）、明石書店、総 441 頁、2016 年 3 月、項目「『ニーベルンゲンの歌』におけるアイスランド ― 現実と神話の狭間の秘境」、334-338 頁執筆担当

『ドイツ文化事典』、石田勇治他編、丸善出版（印刷中）、項目「ニーベルンゲン ― ドイツの過去と現在を結ぶ英雄譚」執筆担当

⑷ 翻訳

［共訳］エリカ・シューハルト著『このくちづけを世界のすべてに　ベートーヴェンの危機からの創造的飛躍』、樋口隆一・山本潤・伊藤綾訳、アカデミア・ミュージック株式会社、総 300 頁、2013 年 3 月、79-150 頁翻訳担当（原著 Erika Schuchardt: Diesen Kuss der ganzen Welt － Beethovens schöpferischer Sprung aus der Krise. Bonn, Bouvier Verlag, 2008, 170S.）

⑸ 口頭発表

『ニーベルンゲンの歌』における「語り」 ― Mündlichkeit と Schriftlichkeit の狭間、2002 年日本独文学会春季研究発表会、獨協大学、2002 年 6 月 1 日

『ニーベルンゲンの歌』と『哀歌』の伝承と受容、2007 年日本独文学会春季研究発表会、東京大学（駒場）、2007 年 6 月 9 日

『ニーベルンゲンの歌』と『哀歌』の写本伝承、2009年西洋中世学会第一回大会、東京大学（駒場）、2009 年 6 月 27 日

『ニーベルンゲンの歌』の重層構造 ― シーフリト像を中心に、2009 年日本独文学会秋季研究発表会、名古屋市立大学、2009 年 10 月 17 日

Minneritt in recken wîse. Interferenzen der höfischen und der heroischen Welt im Nibelungenlied、2010 年慶應義塾大学独文学専攻科研研究会『ヒューマン・プロジェクト』特別企画コロキウム„Diskurse der Heterotopien in der mittelalterlichen Literatur Europas“ 、慶應義塾大学、2010 年 11 月 7 日

Tote voller Blut und Wunden: die Stigmatisierung heroischer Emotionen auf den Körpern gefallener Helden. Eine Untersuchung über die Haltung der Nibelungenklage zum vorchristlichen Heldentum 、2011 年慶應義塾大学独文学専攻科研研究会『ヒューマン・プロジェクト』特別企画コロキウム „Emotion im Mittelalter“、慶應義塾大学、2012 年 1 月 29 日

トーマス・クリングの中世への視線 ― „wolkenstein. Mobilisierun“を巡って、日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「文学史・文化史からみたトーマス・クリング」、中央大学、2012 年 10 月 13 日

Autorschaft in „Dietrichs Flucht“ ― Selbstsnennung, laudatio temporis acti und kollektives Gedächtnis、第 3 回中世コロキウム「中世文学における経験、ファンタジー、詩作」、慶應義塾大学、2013 年 2 月 23 日

中世ドイツ文学に見るローマ観 ― 『ディエトリーヒの逃亡』『皇帝年代記』および『モーリッツ・フォン・クラウーン』を題材に、西洋中世学会第 5 回大会シンポジウム「中世のなかの「ローマ」」、中央大学、2013 年 6 月 23 日

名前と作者 ― 中世俗語文芸における作者性、日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「名前の詩学 ― 文学における固有名あるいは名をめぐる諸問題」、京都府立大学、2014 年 10 月 11 日

Geschichtskonzept in der genealogischen Vorgeschichte von „Dietrichs Flucht“、第 5 回中世コロキウム「ドイツ中世文芸における歴史性と虚構性」、慶應義塾大学、2015 年 3 月 20 日

オーストリアにおける「ドイツ国民叙事詩」研究 ― 『ニーベルンゲンの歌』の「オーストリア性」、2016 年度日本独文学会秋季研究発表会シンポジウム「『人殺しと気狂いたち』の饗宴あるいは戦後オーストリア文学の深層」、関西大学、2016 年 10 月 23 日

Memory and Oblivion. Apocalyptic Structure Formed in Nibelungen-Book, International Symposium “Creation and Destruction of the World”, ブルガリア・ソフィア大学、2017 年 11 月 3 日

⑹ 書評

Elisabeth LIENERT: Die „historische Dietrichepik“: Untersuchungen zu „Dietrichs Flucht“, „Rabenschlacht“ und „Alpharts Tod“. 『西洋中世研究』No.3、西洋中世学会、194-195 頁、2011 年 12 月

Florian KRAGL: Heldenzeit. Interpretationen zur Dietrichepik des 13. bis 16. Jahrhundert.『西洋中世研究』No.5、西洋中世学会、182-183 頁、2013 年 12 月

(7)　その他

「ダリン・テネフ「猫、まなざし、そして死」への応答」、『人文学報』511 号、首都大学東京人文科学研究科、157-161 頁、2015 年 6 月

「ダリン・テネフ「あなたは私の死だった」への応答」、『人文学報』512-15 号、首都大学東京人文科学研究科、119-121 頁、2016 年 3 月

3.　主な社会活動

(1)　非常勤講師

明治学院大学文学部（2009 年 4 月～2011 年 3 月）

早稲田大学法学部（2010 年 4 月～2012 年 3 月）

私立武蔵高等学校（2010 年 4 月～2017 年 3 月）

東京大学教養学部（2016 年 4 月～2018 年 3 月）

お茶の水女子大学文教育学部（2018 年 4 月～現在）

首都大学東京人文社会学部（2018 年 4 月～現在）